

2023年11月

2024年3月期 第2四半期累計期間 (2023年4月1日～2023年9月30日) 決算説明資料

ディービーエックス株式会社



1

当第2四半期（累計期間）のハイライト

3

2

当第2四半期（累計期間）の決算概況

10

3

2024年3月期の見通し

24

4

資本コストと株価を意識した経営

29

1

当第2四半期（累計期間）のハイライト

方針

① 利益率・生産性の向上

- 高利益率商品の売上高構成比のUP
- インセンティブ・一括買取の推進
- DX推進による事務フローの自動化と省力化
- 基幹システム改善による物流と販売管理機能の強化

高利益率商品：自社企画商品の売上拡大（前年同期比 11.7%増）

粗利率：不整脈事業（前年同期11.0%→当上期10.0%）

粗利率：虚血事業（前年同期11.6%→当上期12.9%）

粗利率：その他（前年同期11.9%→当上期11.5%）

粗利率：全社（前年同期11.1%→当上期10.3%）

DX：販売管理システムの改善実施、更新の検討

DX：システム課新設（下期予定）

方針

② 地域依存度の低減

- 施設拡大、品目拡大
- 主要大学、主要病院の新規獲得
- 事業単位でに配布後営業利益黒字化

施設：横浜第二営業所（開設）

施設：新規施設85、売上倍増施設9

※売上倍増施設：上期売上高が前期下期に対して200%以上かつ10百万円以上

品目：新規商品（虚血分野、総販売元）販売開始

品目：新規商品（不整脈検査関連機器）販売開始

品目：新規商品（不整脈検査関連機器、総販売元）契約交渉中

当期方針と取り組みの状況



方針

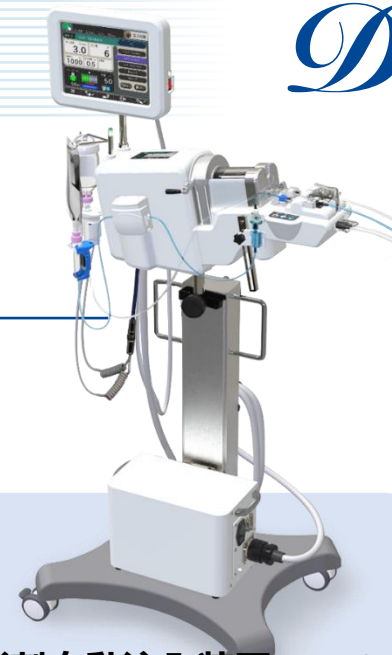
3

強靱な事業ポートフォリオの構築

- 輸入商社機能の強化
- ニーズ志向の製品探索と導入
- RAQUOS事業推進
- オンリーワン商品、自社企画品の販売拡大
- M&A、投資の推進

RAQUOS事業

- ・国内トップシェアを目指す自社企画商品
- ・部材調達難、製品在庫不足への対応



造影剤自動注入装置 RAQUOS
自社企画商品（製造は委託）

医療機器ベンチャー企業への追加投資（下期予定）

その他セグメント

- ・上期売上高 前年同期比17.5%増

その他	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
	上期	上期	上期	上期	上期	上期
売上高（百万円）	607	867	1,190	1,419	1,693	1,990

方針

4

新たな成長基盤の強化（市場）

- 国内シェアNo1に向けたRAQUOS事業の推進
- 海外市場の開拓（アジア向けから）
- R-SUD事業、リサイクル事業の確立
- 営業部門と技術部門の連携による新製品発掘

R-SUD事業（使用済みSUDの収集～再製造～販売）※当社は収集、販売

・2018/12回収事業開始 2020/6販売事業開始

・回収先施設数 157（前期末136）

・販売先施設数 28（前期末28）

・将来の市場拡大、医療費削減、資源有効利用、環境保護

カテーテルリサイクル事業（使用した医療機器から有価物を抽出してリサイクルする）

・回収先施設数 53（前期末47）

海外輸出準備室新設（下期予定）

方針

5

成長基盤の強化（組織）

- E:DX推進によるペーパーレス化、ガソリン消費量の削減、環境保全に配慮した事業活動
- S:ダイバーシティ推進、ワークスタイル変革、働き甲斐のある職場環境の整備
- G:コーポレートガバナンス強化、コンプライアンス推進、内部統制の適切な運用、透明性の高い情報開示

女性活躍・働き方改革

- ・「働き方の見直しプロジェクト」設置（8月）
- ・女性活躍促進法に基づき女性従業員の働きやすさ向上のための活動
- ・最終的には男性従業員を含めた全従業員の働きやすさ向上のための活動

人的資源の活用

- ・「人的資源プロジェクト」設置（8月）
- ・人的資本経営及びESG経営社会（Social）分野における施策の促進
- ・人的資源の活用および社員が働き続けたいと思える職場環境の整備

指定講習

日本CDRセンター

**当社
研修プログラム**



IBHRE (JAPAN) 検定試験

合格

CDR認定申請

CDR認定

一般社団法人
日本不整脈心電学会

5年後 更新のための講習

10年後 IBHRE (JAPAN) 検定再試験

CDR

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器（ICD）等についての専門的な医療機器情報や医療技術情報を提供する者を指す。

CDR 認定制度

植込み型医療機器の適正かつ安全な使用のために、専門的な技術と知識を有し、かつ医療関連企業あるいは医療機関の従事者として高い倫理観を備えた専門家の育成を目指す制度。

上期合格者 6名
在籍認定者 139名

施設拡大・売上獲得の競争力

2

当第2四半期（累計期間）の決算概況

要約損益計算書（第2四半期累計期間）

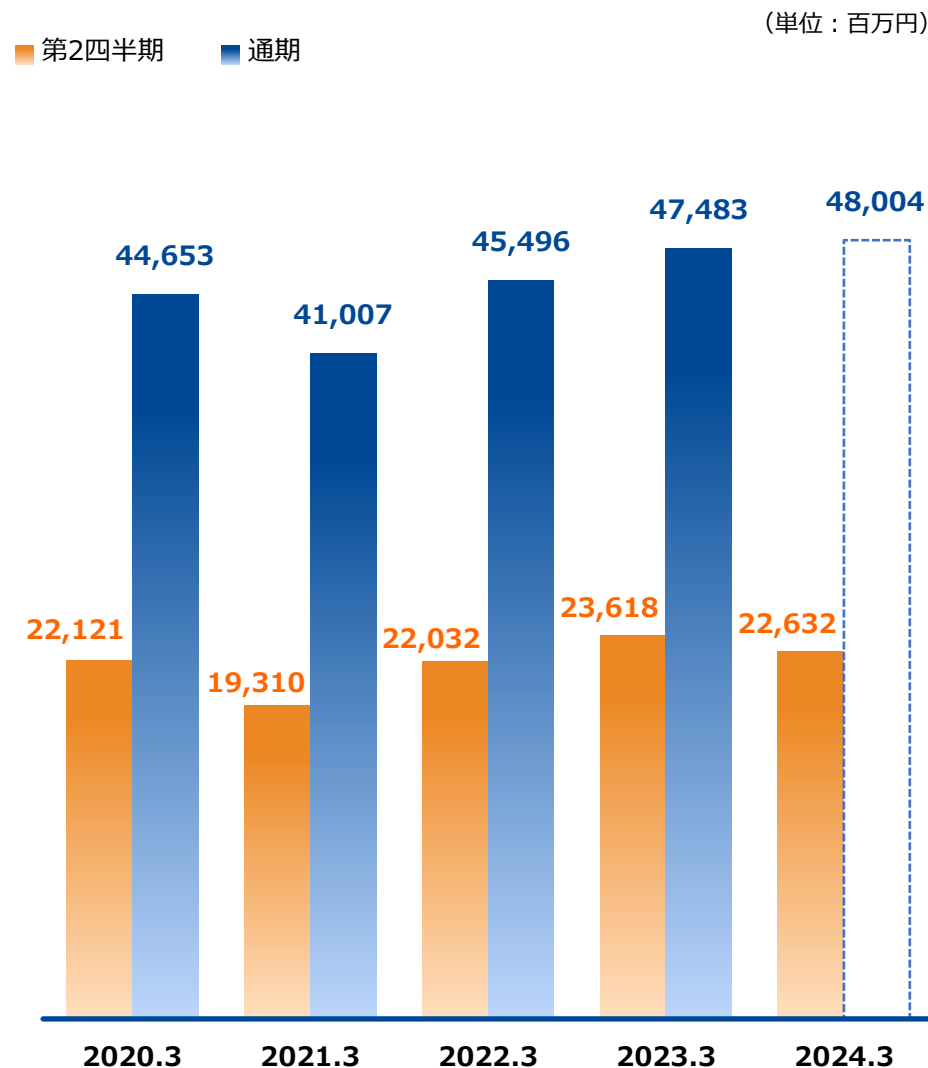


	実績 (百万円)	対売上高 (%)	前年同期実績 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	22,632	100.0	23,618	▲4.2
売上総利益	2,332	10.3	2,630	▲11.3
販管費	2,008	8.9	2,032	▲1.2
営業利益	323	1.4	598	▲45.9
経常利益	330	1.5	614	▲46.2
四半期純利益	233	1.0	416	▲44.0

売上高 **226.3**億円

前年同期比 **4.2 %減**

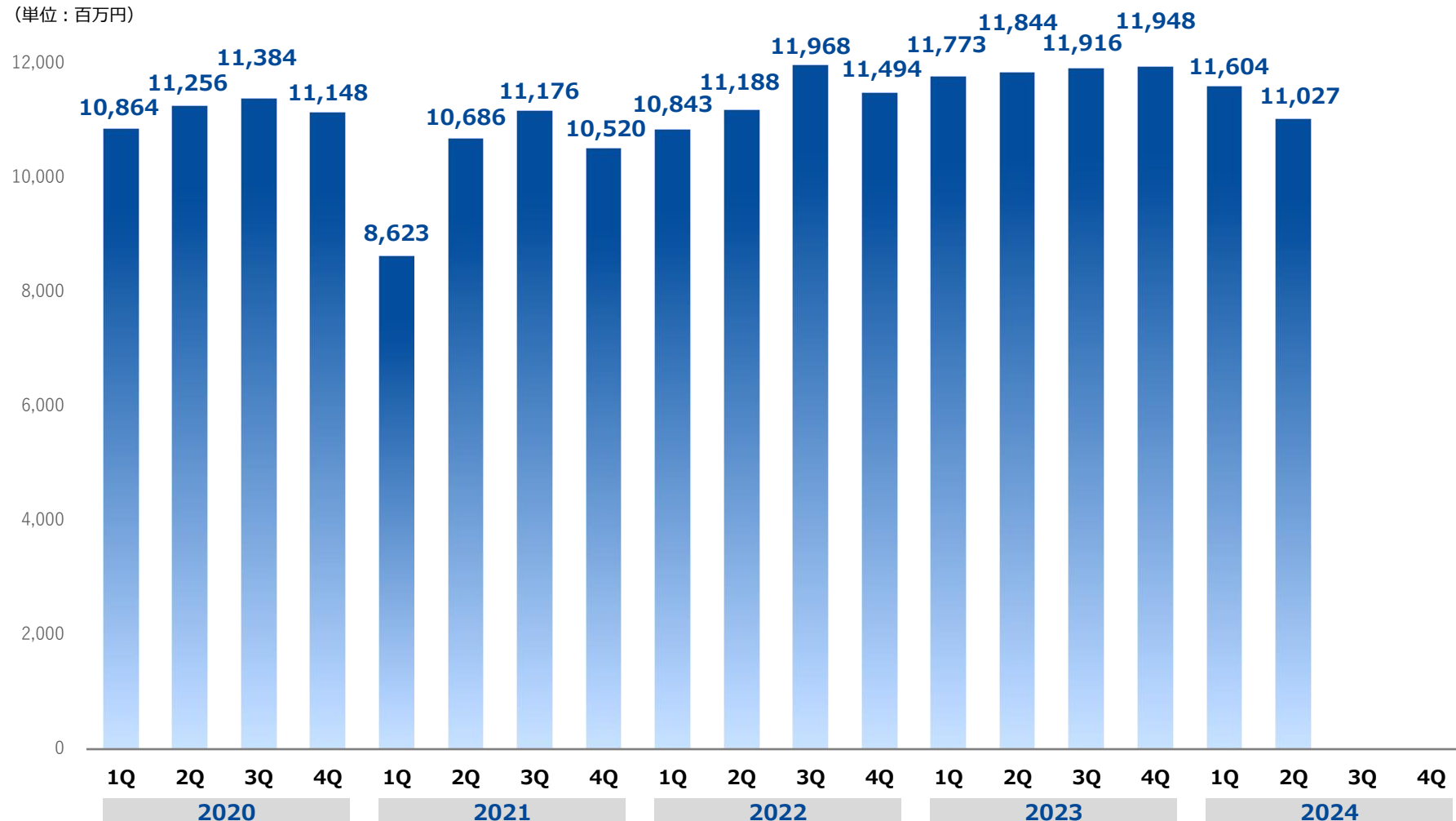
事業区分	実績 (百万円)	前年同期比 (%)
不整脈	19,484	▲4.0
虚血	1,157	▲29.1
その他	1,990	+17.5
合計	22,632	▲4.2



四半期毎売上高の推移



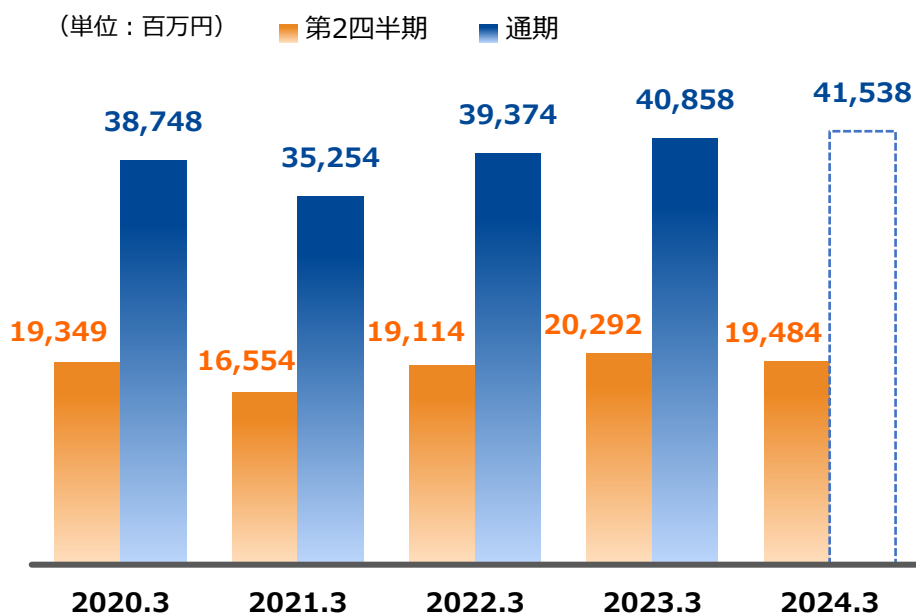
(単位：百万円)



売上高 194.8億円

前年同期比 4.0%減 

■ 一部の主要な取引先施設の商流変更



	実績 (百万円)	前年同期 (百万円)	前年同期比 (%)
PM	1,913	1,964	▲2.6
ICD	1,202	1,180	+1.9
CRT-D	839	1,022	▲17.9
電極カテーテル	5,640	5,786	▲2.5
心腔内エコーカテ	2,053	2,063	▲0.5
ABL機能付	2,970	3,151	▲5.7
ABLカテーテル	155	210	▲26.2
冷凍ABLカテ	1,296	1,241	+4.5
その他	3,412	3,671	▲7.1
合計	19,484	20,292	▲4.0

売上高（虚血事業）



売上高 11.5億円

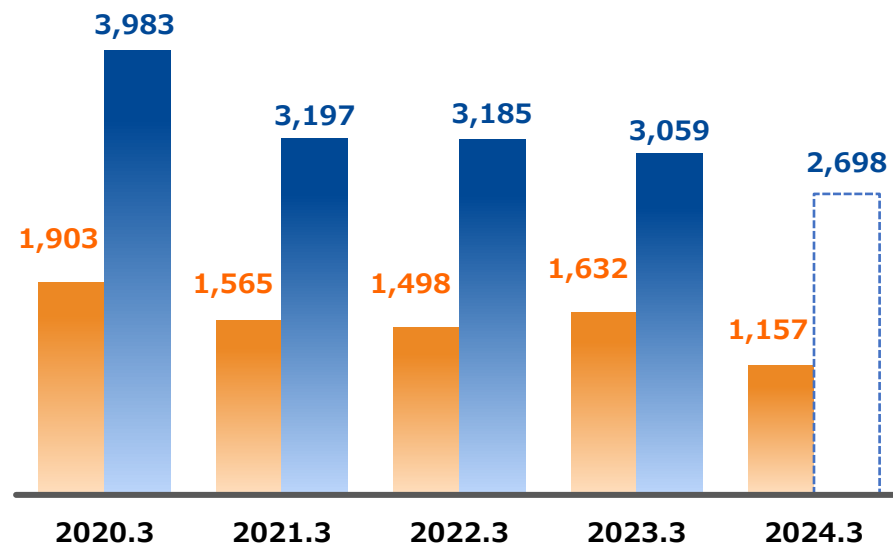
前年同期比 29.1%減 

■ レーザー事業の総販売元としての取り扱い終了

(単位：百万円)

■ 第2四半期

■ 通期



	実績 (百万円)	前年同期 (百万円)	前年同期比 (%)
レーザー事業	138	621	▲77.8
その他	1,019	1,011	+0.8
合計	1,157	1,632	▲29.1

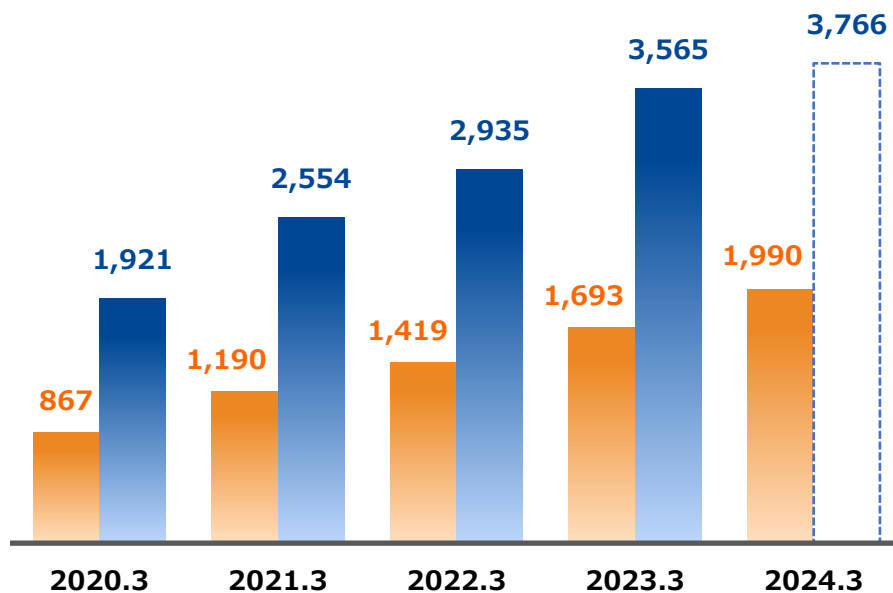
売上高 19.9億円

前年同期比 17.5%増

- TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）関連が好調
- 頭部・腹部領域も拡大

（単位：百万円）

■ 第2四半期 ■ 通期



	当期 (百万円)	前年同期 (百万円)	前年同期比 (%)
ストラクチャー	843	690	+22.2
頭部腹部領域	669	631	+6.0
心臓血管外科	91	70	+29.7
外科	116	74	+56.3
その他	269	226	+19.1
合計	1,990	1,693	+17.5

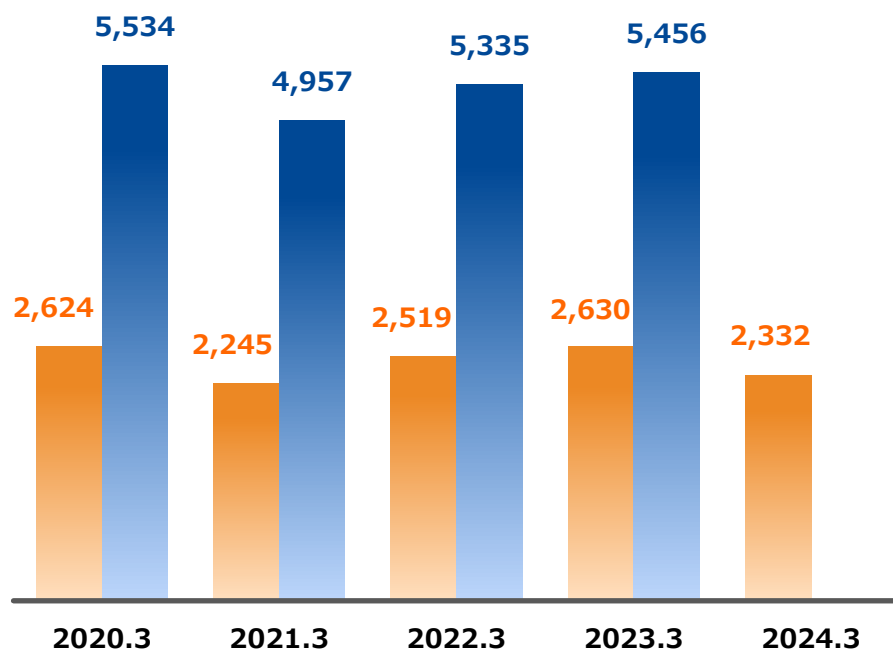
売上総利益 23.3億円

前年同期比 **11.3 %増**

■ 粗利率10.3%（前期11.1%）

（単位：百万円）

■ 第2四半期 ■ 通期



	実績 (百万円)	前年同期比 (%)
不整脈	1,954	▲12.8
虚血	148	▲21.2
その他	228	+14.0
合計	2,332	▲11.3

売上総利益（事業別）



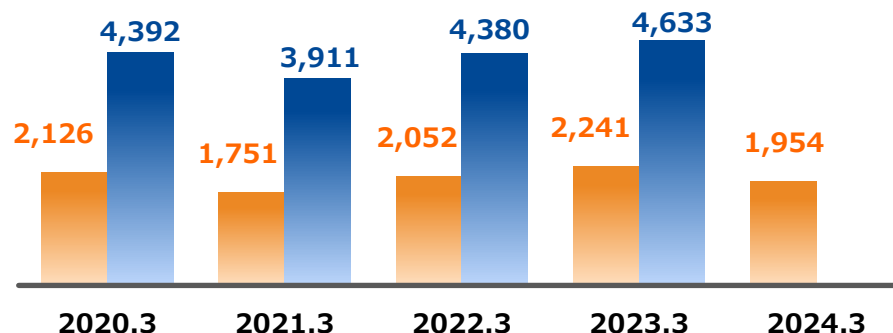
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位：百万円)

不整脈事業

セグメント利益 **19.5億円**

前年同期比 **12.8%減**

- 売上高減少
- 粗利率低下（粗利率10.0%、前年同期11.0%）

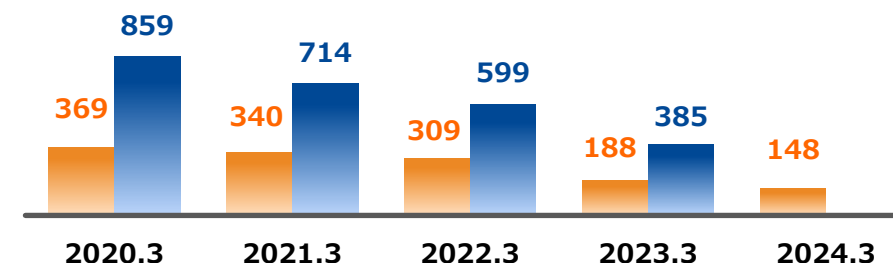


虚血事業

セグメント利益 **1.4億円**

前年同期比 **21.2%減**

- 売上高減少
- 粗利率上昇（粗利率12.9%、前年同期11.6%）

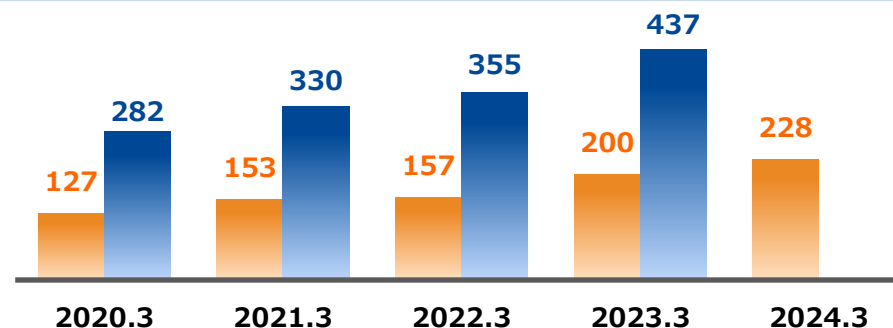


その他

セグメント利益 **2.2億円**

前年同期比 **14.0%増**

- 売上高増加
- 粗利率低下（粗利率11.5%、前年同期11.9%）

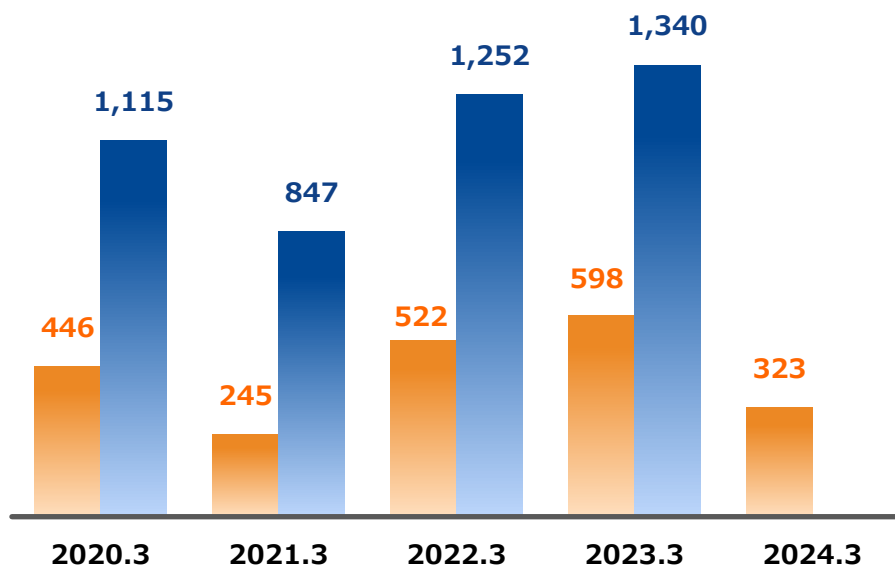


営業利益 3.2億円

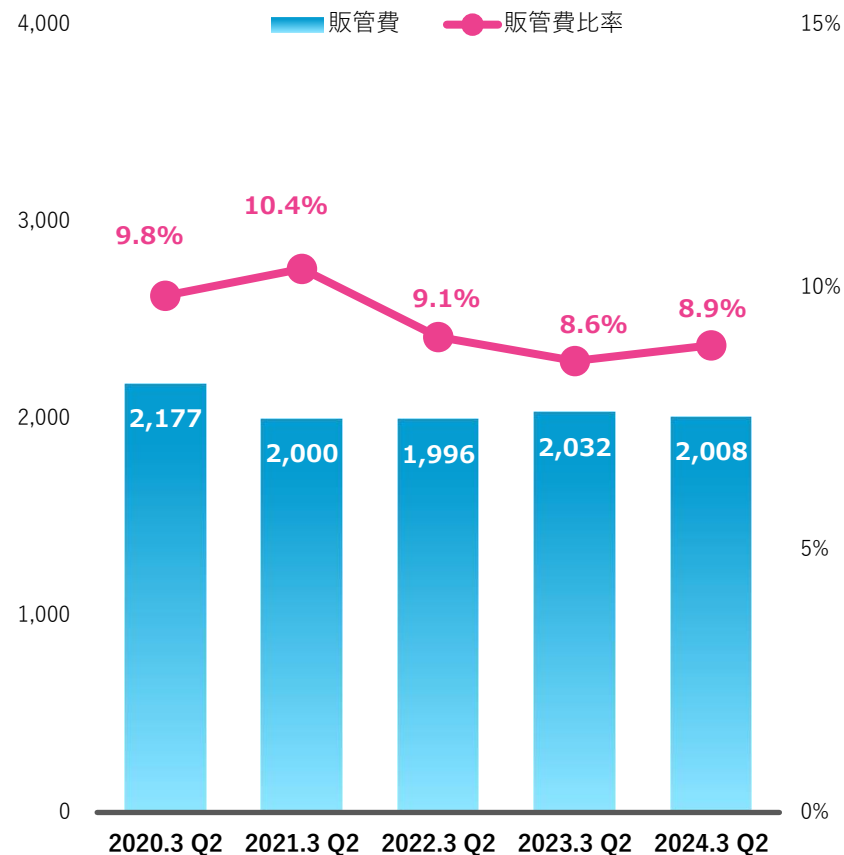
前年同期比 45.9%減

- 売上総利益 前年同期比11.3%減
- 販売管理費 前年同期比1.2%減
- 売上高営業利益率1.4%（前年同期2.5%）
- 売上高販管費比率8.9%（前年同期8.6%）

（単位：百万円） ■ 第2四半期 ■ 通期



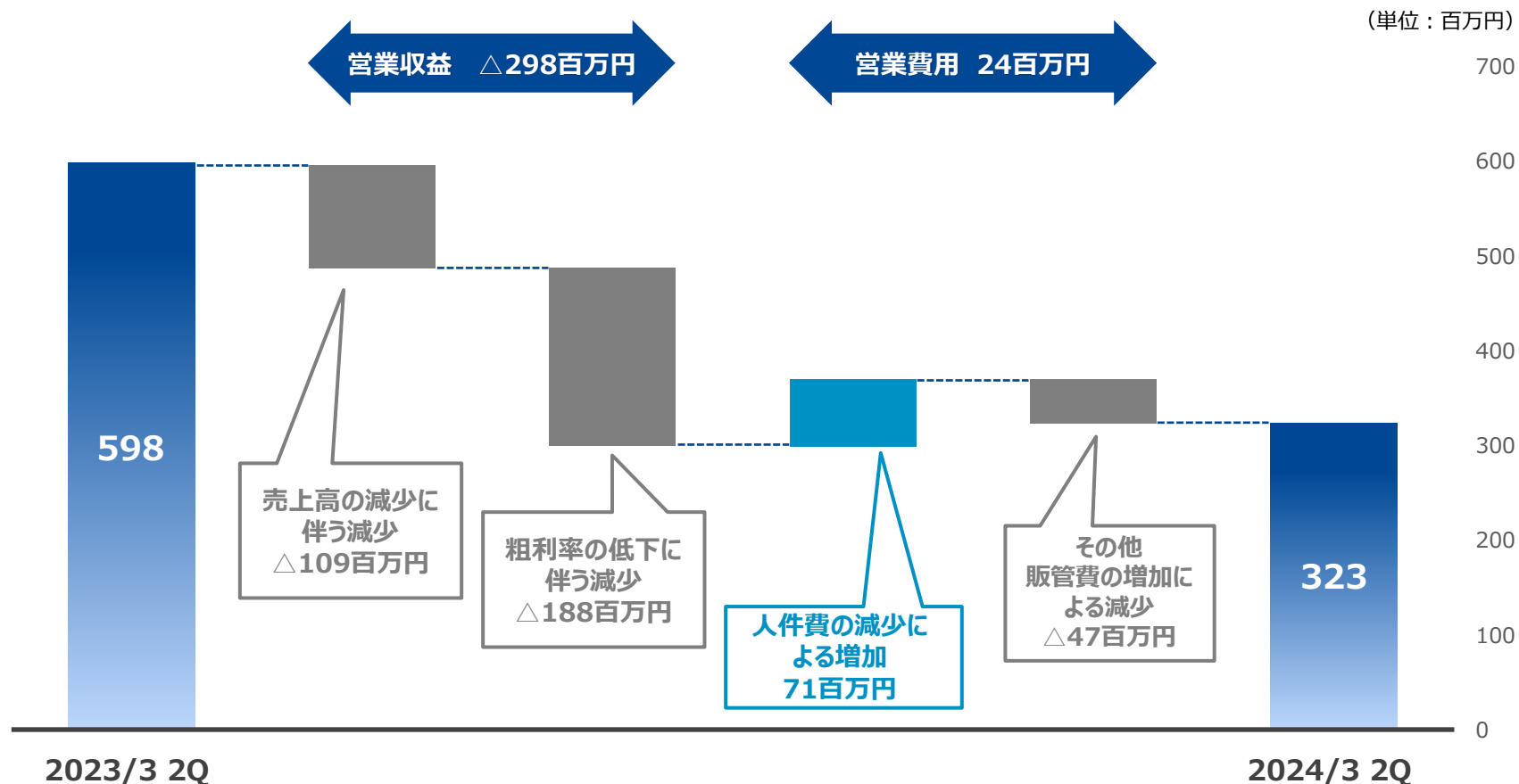
（単位：百万円）



営業利益増減分析



売上高の減少で109百万円減少、粗利率の低下で188百万円減少、人件費の減少で71百万円増加、人件費以外の販売管理費の増加で47百万円の減少



四半期純利益 2.3億円

前年同期比 44.0%減 

主な営業外損益

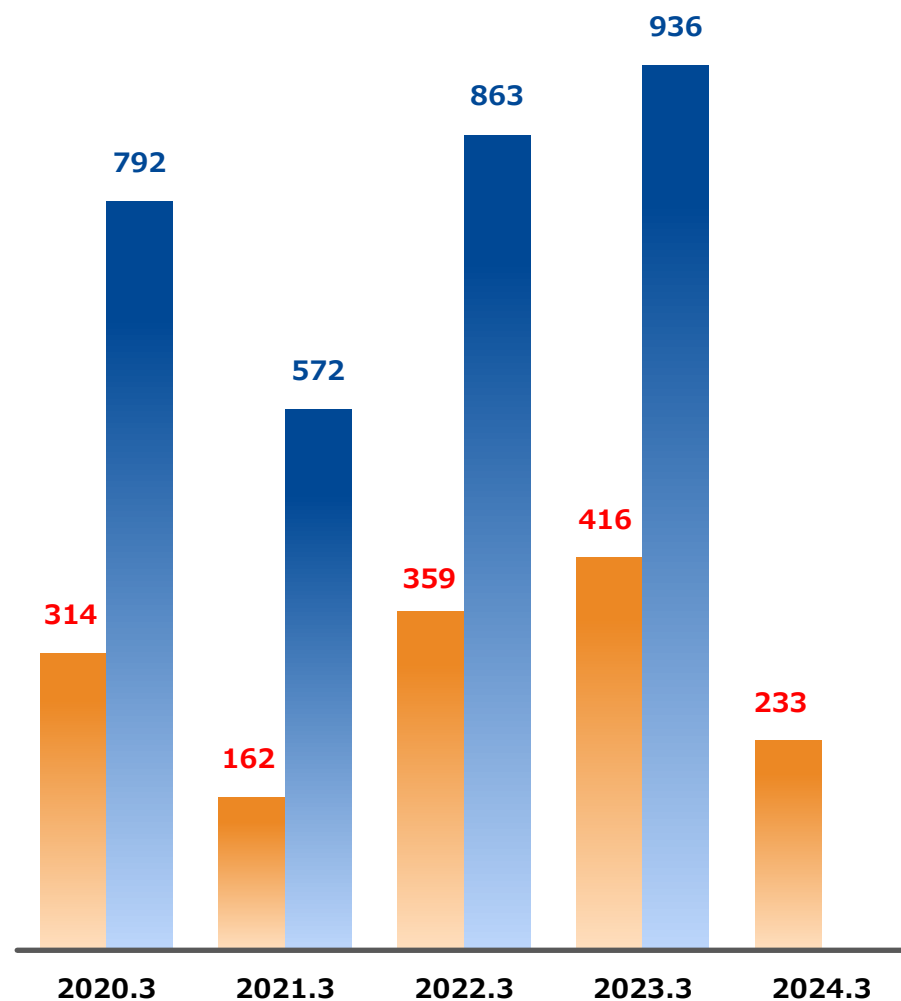
- 為替差益 5百万円

主な特別損益

- 新株予約権戻入益 10百万円
- 固定資産除却損 3百万円

■ 第2四半期 ■ 通期

(単位：百万円)



要約貸借対照表（第2四半期末）



	実績 (百万円)	構成比 (%)	前期末 (百万円)	前期末比 (%)	主な増減要因
流動資産	21,060	92.2	21,965	▲4.1	現預金（▲937百万円） 受取手形、売掛金及び契約資産（▲178百万円） 電子記録債権（+125百万円） 商品（+173百万円）
固定資産	1,781	7.8	1,624	+9.7	有形固定資産（+93百万円）
資産合計	22,841	100.0	23,589	▲3.2	
流動負債	13,066	57.2	13,770	▲5.1	買掛金（▲810百万円） 電子記録債務（+122百万円） 未払法人税等（▲103百万円）
固定負債	515	2.3	507	+1.7	
負債合計	13,582	59.5	14,278	▲4.9	
純資産	9,259	40.5	9,311	▲0.6	
負債純資産合計	22,841	100.0	23,589	▲3.2	

要約キャッシュ・フロー計算書（第2四半期累計期間）



	実績 (百万円)	前年同期 (百万円)	当期の主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲498	1,200	● 税引前四半期純利益（+337百万円） ● 減価償却費（+205百万円） ● 仕入債務の減少（▲688百万円） ● 棚卸資産の増加（▲301百万円）
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲134	▲28	● 有形固定資産の取得（▲105百万円） ● 差入保証金の差入（▲28百万円）
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲311	▲254	● 配当金の支払（▲312百万円）
現金及び現金同等物の増減額 （▲は減少）	▲937	926	
現金及び現金同等物の期首残高	8,614	7,846	
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,676	8,773	

3

2024年3月期の見通し

売上高 480.0億円

前期比

1.1 %増



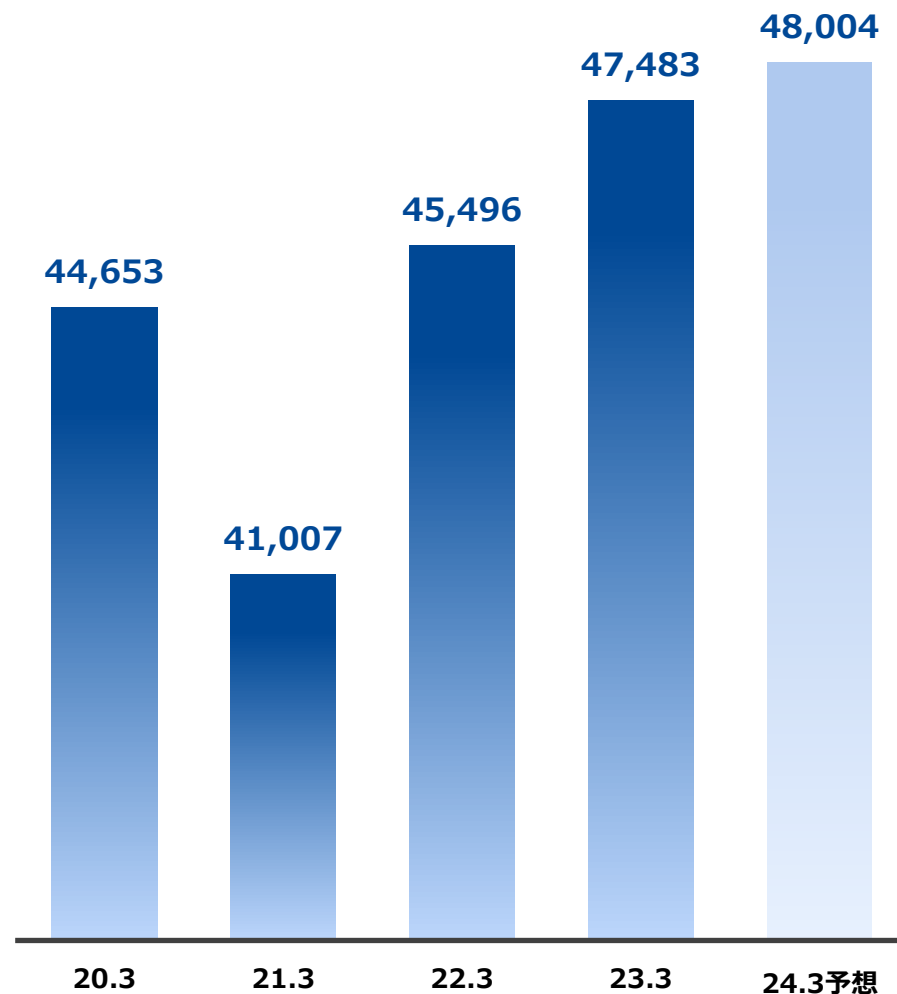
- 新型コロナウイルス感染症による影響の解消を見込む
- 施設拡大、品目拡大による売上増加を見込む
- レーザー事業の減収を見込む
- 一部の主要な取引先施設の減少をおり込む

不整脈事業 41,538百万円 1.7%増

虚血事業 2,698百万円 11.8%減

その他 3,766百万円 5.6%増

（単位：百万円）



業績予想（営業利益、当期純利益）

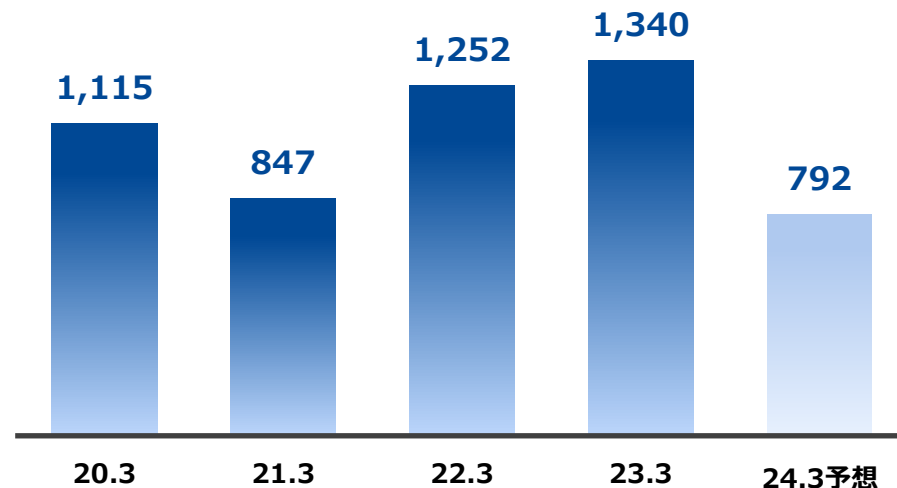


（単位：百万円）

営業利益 7.9億円

前期比 40.9%減

- 売上高の増加（営業利益増加要因）
- 粗利率の低下（営業利益減少要因）
- 運営コストの増加（営業利益減少要因）

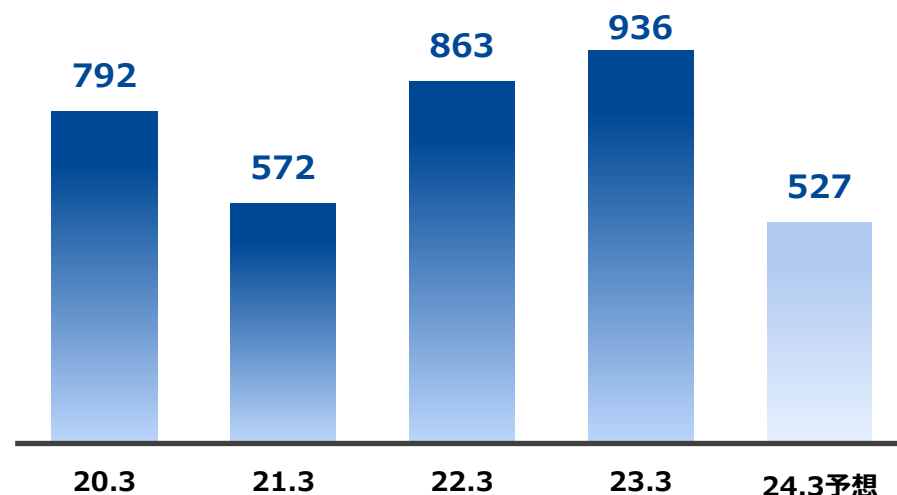


当期純利益 5.2億円

前期比 43.6%減

予想EPS 50円63銭

前期実績 90円21銭



	通期 (計画)	当第2四半期 累計 (実績)	進捗率 (対通期計画)
売上高	48,004	22,632	47.1%
営業利益	792	323	40.9%
経常利益	792	330	41.7%
当期(四半期)純利益	527	233	44.2%

期末配当金 **50.0円**

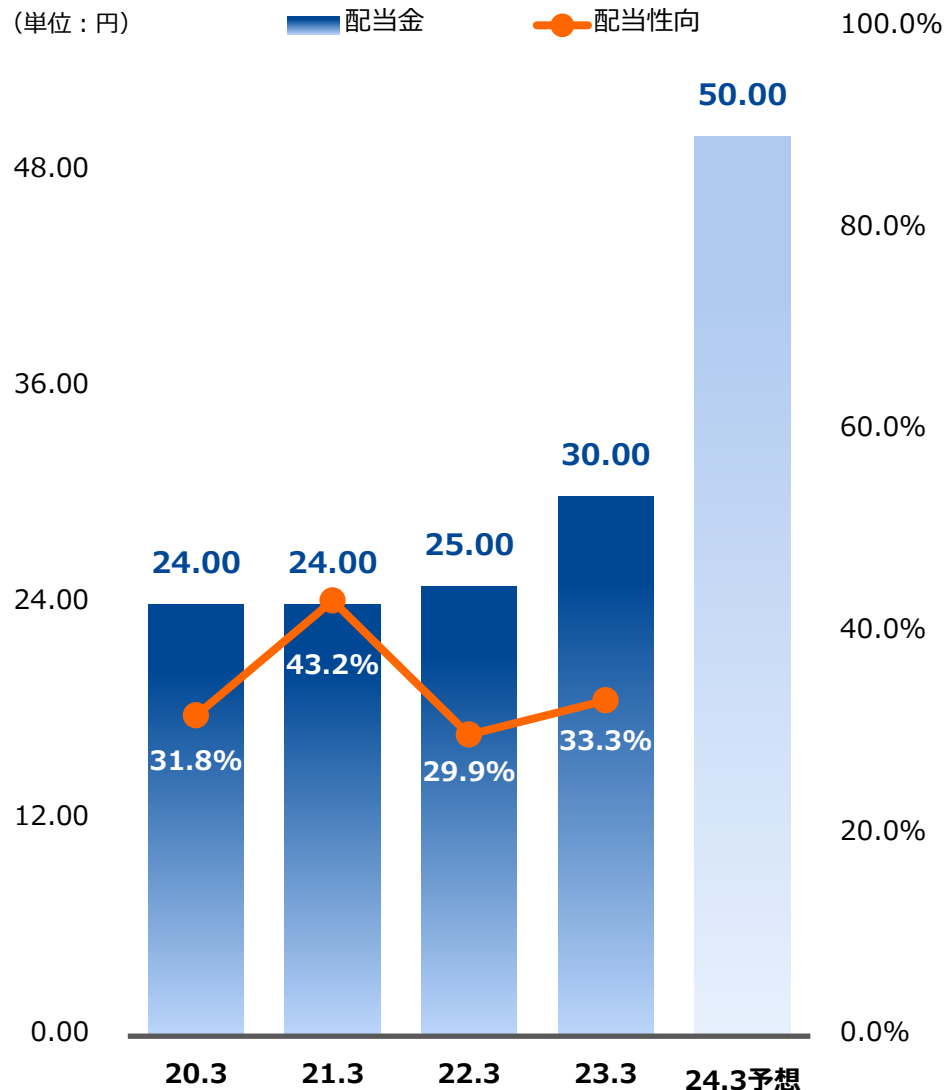
2023年3月期 **30.0円**

配当方針

9月14日「株主還元方針（配当方針）の変更に関するお知らせ」

変更後の方針

株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営課題として、企業価値および株式価値の向上を図ることで株主還元を継続的かつ安定的に強化する。配当については、DOE（株主資本配当率）5.0%以上を目途に配当額を決定する。



4

資本コストと株価を意識した経営

1.現状分析

(1) ROE

* 当社は有利子負債をほぼ有しない財務状況であるため、WACCとROICの比較は用いず、株主資本コストとROE（自己資本利益率）を比較

* 当社は株主資本コストを5.5%（上下1.0%）の範囲と想定

* ROEは過去5期間において株主資本コストを上回って推移

* しかしながら当期においては、前期比43.6%減益（当期純利益）の業績予想を公表しており、ROEが株主資本コストの想定上限値を下回る見込み

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期 (予想)
当期純利益（千円）	974,181	792,028	572,367	863,016	936,184	527,000
ROE（%）	13.1	10.5	7.4	10.5	10.5	

ROE：当期純利益/（（期首自己資本＋期末自己資本）/2）

1.現状分析

(2) PBR

* PBRは過去5期間において、ほぼ1.0倍を超えて推移

* 一方で当期第2四半期は7月以降の一定期間（2か月程度）においてPBRが1.0倍を下回る推移が生じた（当第2四半期末は1.1倍台）

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期 (上期)
最高株価	1,500	978	1,195	1,249	1,097	1,081
最低株価	927	669	725	936	836	810
PBR（最高株価）	2.29	1.42	1.62	1.62	1.32	1.21
PBR（最低株価）	1.42	0.97	0.98	1.22	1.01	0.90

PBR : (株価 × (発行済株式数－自己株式数)) / 直前期末純資産合計

2. 取り組みの方針

(1) ROEの向上

ROEが株主資本コスト（株主が期待する利益率）を上回れば企業は価値を創造しており、下回れば価値を損ねているとの認識のもと、「 $ROE > \text{株主資本コスト}$ 」の継続を図る。中期的なROEの目標値は、これまで通り20.0%とする。

(2) 中期経営計画の推進

適正なPBR評価のために、中長期的な収益の安定性および成長性について株式市場から評価を得られるよう中期経営計画を着実に推進・実行する。その推進のために、資本コストや資本収益性を十分に意識したうえで適切な経営資源の配分を行う。

(3) 株主還元強化

株式価値を高めるために株主還元の更なる充実を図る。企業価値の向上による長期的に安定した株主還元を図る一方で、投資機会の状況、資本コストを踏まえた資本効率の向上、資金の最適な活用などを考慮して利益還元のバランスを適切に判断する。

3. 具体的な取り組み

（１）ROEの向上

中期経営計画の骨子Ⅰ 利益率・生産性の向上、Ⅲ強靱な事業ポートフォリオの構築、Ⅳ新たな成長基盤の強化（市場）のための施策への取り組みを継続する。

（本資料「2024年3月期第2四半期決算説明資料」のP4、P6、P7を参照）

（２）中期経営計画の推進

中期経営計画の骨子Ⅰ、Ⅲ、Ⅳに加えて、Ⅱ地域依存度の低減、Ⅴ成長基盤の強化（組織）のための施策への取り組みを継続する。（本資料「2024年3月期第2四半期決算説明資料」のP5、P8を参照）

また、中期経営計画の着実な推進のために①方針に基づく経営資源の配分状況、②施策の成果あるいは進捗状況、③中期経営計画の修正要素について取締役会が定期的に確認する。

（３）株主還元強化

2023年9月14日に株主還元方針の変更を取締役会決議し、株主資本に対して配当を支払う水準を示す指標であるDOE（株主資本配当率）5.0%以上を目途に配当額を決定することとした。この変更に伴い、2024年3月期末配当の予想値を30円から50円に修正した。



*Development
Venture*

X (無限の可能性)

IRについてのお問い合わせ先 財務経理部

TEL : 03-5985-6832 E-Mail : ir_form@dvx.jp URL : <https://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。